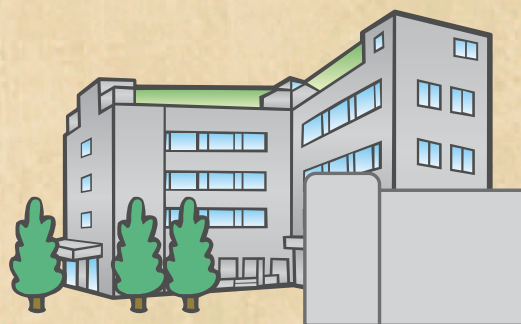


# 防犯安全器具を効果的に活用するために 子どもの安全を守る(学校編)



- 校内で児童等が被害に遭うという痛ましい事件を背景に、都内の小中学校等では、児童・生徒の安全を守るため、さすまた、盾、催涙スプレーなどの器具（以下「防犯安全器具」という。）の導入が進んでいます。
- 防犯安全器具は適切に使用することにより、最大の効果を発揮することができます。しかし、どのような場面でも対応できる万能な防犯安全器具はありません。
- 本マニュアルでは、学校に配備されている主な防犯安全器具の長所、短所を示すとともに、防犯安全器具の配置方法や訓練方法等の留意事項についてまとめています。
- 防犯安全器具の使用方法や防犯カメラを活用したモデル防犯訓練の実際については、映像資料「子どもの安全を守る（学校編）」をご覧ください。

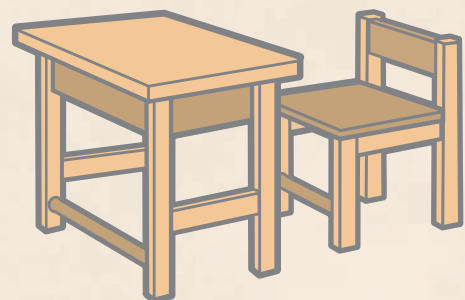


## 1 学校における防犯安全器具の考え方

- ✓ 侵入防止が基本
  - ・学校における児童・生徒の安全確保の基本は、校門の施錠や入校証による入校者の把握、防犯カメラによる監視等により、不審者（正当な理由なく校内に立ち入ろうとする者。以下同じ。）が校内に立ち入らないようにすることです。
- ✓ 防犯安全器具は児童・生徒の安全を確保する最後の砦
  - ・不審者が校内に立ち入った場合は、非常通報装置等により、ただちに警察に通報してください。その上で、警察が到着するまでの間、児童・生徒を掌握し、さすまたなどを活用して安全を確保しつつ、適切に避難誘導をするなど、人的被害の防止・軽減のための対策を講じてください。

## 2 防犯安全器具の長所・短所と学校の特徴を理解する

- ✓ 現在、都内の公立学校には、さすまた、ネット発射機、催涙スプレーなどの防犯安全器具が配備されています。しかし、一つで万全の効果を発揮するものではなく、それぞれ長所、短所があります。それらを十分に理解した上で使用方法を習得しておくことが必要です。
- ✓ 緊急時に、常に防犯安全器具が手元にあるとは限りません。机、いすなど近くにあるものを活用して安全を確保する方法についても習得しておくことが大切です。
- ✓ 校舎や門の配置、教室のレイアウト、教職員の構成により、学校に適した防犯安全器具の種類、数量は異なります。それぞれの学校の状況を踏まえて防犯安全器具を配備しておくことが必要です。



### 3 適切な場所に設置する

- ✓ 防犯安全器具は、教職員がすぐに手に取れるが、不審者の手に渡る危険性が低い場所に設置することが必要です。防犯安全器具が不審者の手に渡ると、凶器にもなります。

さすまた、盾などは、  
教職員がすぐに手に取れる場所にありますか。

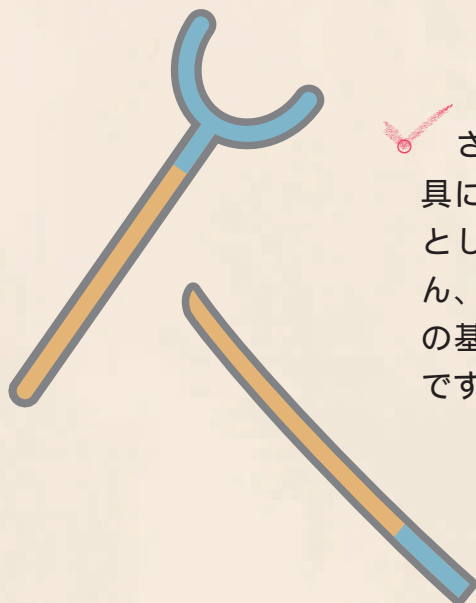
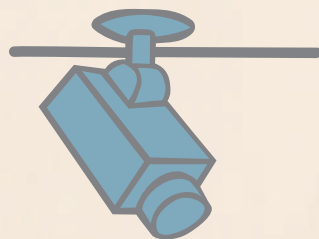
- ✓ 学校における職員室等の配置や不審者の侵入経路は様々です。学校毎に平面図等を用いた図上訓練を行い、防犯安全器具の配置場所、配置数を随時検証しておく必要があります。

ネット発射機、催涙スプレー、杖などの保管場所  
を全教職員が知っていますか。また、緊急時には、  
誰でもすぐに手に取れる状態になっていますか。



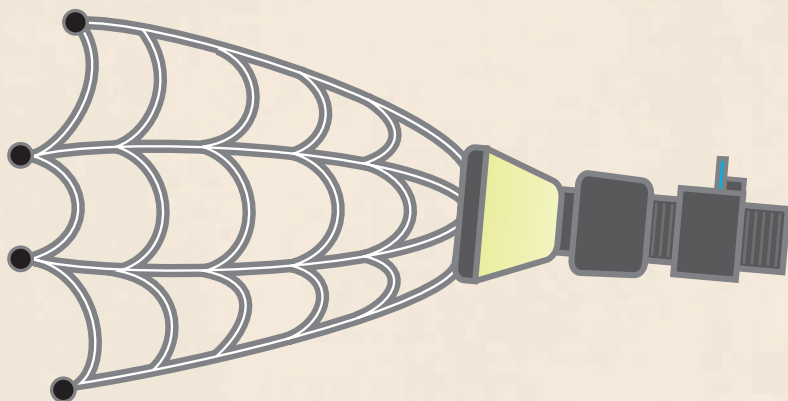
## 4 実践的な防犯訓練を行う

- ✓ 不審者は、いつ、どのような経路で学校へ侵入してくるかは予測できません。防犯カメラを活用した不審者の早期発見、児童・生徒の避難、不審者の隔離、警察署への通報といった一連の防犯訓練を日頃から行っておくことが重要です。



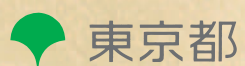
- ✓ さすまたなど一定の訓練が必要な防犯安全器具に関しては、訓練を受けた教職員を「取扱者」として指定しておくことが望めます。もちろん、全ての教職員は、学校にある防犯安全器具の基本的な使用法を身につけておくことが必要です。

- ✓ 防犯訓練にあわせて、防犯安全器具の種類、数や設置場所、使用方法についても検証しておくことが必要です。



| 防犯安全<br>器 具                                                                                        | 都内公立<br>学校普及率 | 長 所                                         | 短 所                                | 注 意 事 項                        |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|---------------------------------------------|------------------------------------|--------------------------------|
| さすまた<br>          | 80%           | 柄が長いため、刃物を持った相手とも距離を置いて安全に対応することができる。       | 相手方の腕力が上回る場合には、相手方の武器にもなる。         | 相手を押さえようとする場合には、複数のさすまたが必要である。 |
| ネット<br>発射機<br>     | 17%           | スイッチを押すだけで使用できるため、腕力がない女性でも使用できる。           | 誤射しても連射ができない。<br>ネットの再利用はできない。     | 電池で作動するので、定期的なメンテナンスが必要である。    |
| 催 涙<br>スプレー<br> | 37%           | 至近距離で使用すれば、十数分間は相手の動きを制約できる。                | 狭い室内で使用的場合や風向きによっては使用者が害を被る可能性がある。 | 保存期間を過ぎると効果が落ちる。               |
| 杖<br>           | 19%           | 相手に対するダメージが強いため、適切に使用すれば相手からの攻撃を回避することができる。 | 相手に必要以上のダメージを与える可能性がある。            | 使用は首から下に限るとともに、過剰な打撃は行わない。     |
| 盾<br>           | 14%           | 標準的な盾では身体の3分の1を保護できる。                       | 足元への攻撃は防げない。                       |                                |

注1：都内学校普及率は、文部科学省「学校の安全管理の取組状況に関する調査」（平成18年度実績）による。（小数点以下は四捨五入）



東京都青少年・治安対策本部総合対策部安全・安心まちづくり課

〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号

平成20年3月発行

